

法政大学学術機関リポジトリ

HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2025-07-06

畠山武道・大塚直・北村喜宣, 『環境法入門』, 日本経済新聞社, 2000年(本の招待席)

NAGANO, Hideo / 永野, 秀雄

(出版者 / Publisher)

法政大学人間環境学会

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

The Hosei journal of humanity and environment / 人間環境論集

(巻 / Volume)

2

(号 / Number)

2

(開始ページ / Start Page)

90

(終了ページ / End Page)

90

(発行年 / Year)

2002-03-30

(URL)

<https://doi.org/10.15002/00002903>

本の招待席

畠山武道・大塚直・北村喜宣 『環境法入門』

(日本経済新聞社、2000年)

環境法の入門書には、なかなかよいものがない。特に、法学部以外の学生が、環境法を学び始めようとする場合には、なおさらである。これは、環境法という分野が、環境行政法、環境民事法、環境国際法から成り立っており、これらの基礎となる行政法、民事法、国際法の知識がなければ、なかなか理解しづらいからである。また、従来の『環境法』等のタイトルのついた教科書も、そのほとんどが、法学部の学生を対象としたものであった。

しかし、環境学を学ぶものにとって、環境法の知識は欠かせない。このため、従来の環境法テキストに入る前に、その全体像と法学的基礎知識を把握するための環境法入門書があれば学生の助けになる。筆者が見た限り、ここに紹介する畠山武道・大塚直・北村喜宣『環境法入門』(日本経済新聞社、2000年)が、そのような環境法入門書としては最善のものである。

本書の利点を挙げると、まず、日経文庫として出版されたことから、860円と値段も手頃であり、分量も200頁強であってボリュームとしても適切である。また、一般の読者に多く読んでもらおうという共著者の意図が徹底しており、文体も、「です・ます」調に統一されており、わかり易い。さらに、著者である3名の先生方は、日本の環境法学を比較法学も踏まえた上で業績を積み上げられてきた研究者であって、申し分ない。

内容をみると、「Ⅰ. 環境法の全体像」、「Ⅱ. 環境汚染の防止」、「Ⅲ. 廃棄物処理とリサイクル」、「Ⅳ. 自然保護の仕組み」、「Ⅴ. 地球環境問題への取り組み」、「Ⅵ. 企業活動と環境保全」という構成になっており、一般の学生が身近な例から環境法の全体像に接近できるような構成になっている。

次に、本書の中心をなすⅠ章からⅣ章の内容を紹介したい。まず、Ⅰ章では、通常、法学部

向けの環境法の教科書ではなかなか見られない環境政策の有り方が記述されており、わかりやすい。次のⅡ章が環境行政法と環境民事法の概説になっている。理解しやすい説明になっているが、文庫本という分量上の制限があることを前提にしながらも、あと一步、専門用語の説明や解説があった方がよかったと思われる部分もある。たとえば、64頁で「受忍限度」という用語が突然使われているが、中にはすぐに理解できない読書もいるかもしれない。これに続くⅢ章は、環境行政法のうち、一般市民にとっては最も関心の高いと思われる廃棄物処理とリサイクルに焦点を当てて書かれている。Ⅳ章は、わが国に自然保護法理論を代表される畠山教授が担当されており、大家が一般の人々のためにわかりやすく書くと、このようにすばらしいものになるというお手本であろう。

最後に、筆者があえてこの良書に苦言を呈するとすれば、Ⅴ章とⅥ章の内容である。まず、「地球環境問題への取り組み」と題されたⅤ章は、内容・ボリュームともに、Ⅳ章までの充実度からすれば、かなり手薄である。本来であれば、この国際環境法の説明に当たる章の執筆を、国際環境法を専門とする先生を共著者に加えて担当してもらった方がよかったのではないかと。また、次のⅥ章の「企業活動と環境保全」では、ISOや環境会計などが概説されているが、この章はなくともよかったと思われる。環境法入門書にこの章を付加するためには、ISO等への法的な分析が必要であるが、実はこれらの分析は、これらからの環境法学の課題であることから、十分な研究の蓄積がないのである。

(永野 秀雄)